

地域で支える学校支援組織づくり
ともえサポーターズの取組

袋井北小学校支援地域本部

はじめに

静岡県袋井市は、東海道五十三次のちようど「どまん中」二十七番目の宿場町で、法多山尊永寺や油山寺、可睡斎などの名勝があり、また、お茶や温室メロンなどの地場産業も盛んで、長い歴史と伝統を今に引き継いでいます。

袋井市のほぼ中央、東名高速道路と国道一号线に挟まれた地域が袋井北小学区で、約5100世帯が暮らしています。

袋井北小学校は、明治六年に創立され、138年の歴史を持つ伝統ある学校です。児童数は860人で袋井市内一の大規模校でもあります。学区には、今から510年前戦国時代の武将久野宗隆（くのむねたか）によって作られた久野城の跡があります。久野氏は江戸時代初期までこの地を治めました。久野氏の家紋が「左三つ巴」（ひだりみつどもえ）であることから、北小の

校章は、この久野氏の家紋となつていません。また、学校や家庭、地域の三つが「ともえ」のように連携する「ともえ教育」を掲げており、子どもたちを支える地域の自治会活動や公民館活動も盛んに行われています。登下校の安全を守るスクールガードなどのボランティア活動も自治会が中心となり地道に行われてきました。（四年前には優良公民館文部科学大臣賞を受賞）また、保護者が中心の図書ボランティアの活動は大変大きな成果を上げており、本年度、全国出版協会の主催する「朝の読書大賞」を受賞しています。

学校支援地域本部事業のスタート

このような地域の活動をもとに、より一層学校と地域の連携を進めてはどうかと静岡県教育委員会・袋井市教育委員会から学校支援地域本部事業を紹介され、小学校・PTA・校区内の二

つの連合自治会・公民館などの関係機関で協議し、平成二十一年一〇月、袋井北小学校支援地域本部が発足しました。地域コーディネーターには、元校長経験があり、退職後は公民館活動において文化事業部長を務められ地域の人材にも詳しい中村猛志氏に委嘱しました。

協議や活動を進めていく中で、次の3つの課題が出されました。

- ①学校が多忙化し、教師が子どもと向きあう時間が減ってきていること
- ②学校が様々な教育を負うことで、教師の力だけでは補えない部分が出てきていること
- ③学校開放が進められているが、地域の子どもたちや孫たちの様子を見たくても、きっかけがないとなかなか学校に足を運びにくいと思っている住民が多いこと

「ともえサポーターズ」の結成

これらの課題を解決するために、平成二二年度は、スクールガードボランティアや図書ボランティアの他にも、学校の教育活動や環境整備に幅広く対応できるボランティアグループづくりを進めていくこととなりました。このグループは、前述の「ともえ教育」から「ともえサポーターズ」と名付けました。

メンバー募集にあたっての基本理念は、「自分のできる時間に、自分のできる仕事をするボランティア」

とし、誰でも気軽に参加できる会を強調しました。ポスターを作って掲示したり、公民館運営委員会の場で協力を呼びかけたり、連合自治会傘下の二〇自治会を通じチラシを回覧したりして、会員を募集しました。その結果、七〇代から高校生まで四七名会員が集まりました。八月に「ともえサポーターズの集い」を開催し、会則や活動の方針

